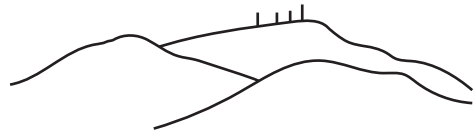


Youth Manna

2018/7/23-7/29



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2018/7/23(月)

士師記 7 章

ミディアン人との戦いにおいて、神様はギデオンに戦力を削減させた。敵の数は13万5千人。対するギデオンの兵は300人。ありえないくらいの戦力差だが、これはイスラエルが自分たちの力を誇らず、神様を誇るようになるためだった。ギデオンも信じて従ったが、まだ恐れがあった。しかし敵の陣営に偵察に行き、勝利を確信し、神様を礼拝した。「王は軍勢の大きさでは救われない。勇者は力の大きさでは救い出されない。」詩篇 33:16

私たちの前に置かれている勝利とは何か？それぞれ遣わされた場所に御国が来るように祈る時に、どんな戦いがあるか？光が闇に打ち勝つように、勝利を確信して出て行こう！

2018/7/24(火)

士師記 8:1-17

ギデオンはエフライム部族が不満を言った時には、相手を尊敬して知恵を持って話したよ。

それによって争いを回避出来たんだ。しかし戦いの前に疲れて食料を求めた時に良くしてくれなかった、スコテとペヌエルには、戦いが終わった後に厳しすぎる報復をしたね。

ギデオンは神様の力を信じて素晴らしい戦いを出来たけど、自分の考えで裁いてしまって神様に聞くことにおいて足りないところもあったんだね。

ギデオンのように神様に聞かないで行動したり、勝手に裁いたりしてないかな？？まず祈って1日を始めよう！！

2018/7/25(水)

士師記 8:18-35

ミディアン人との戦いに勝利した後のギデオンの行動を見よう。ギデオンは分捕り物の金などを集めて祭司が着るエポデを作った。自分が召されていない祭司のエポデを作ったことは、自分の力を誇り、神様を恐れていなかったと言えないだろうか。そしてギデオンは神様に聞かずに行動しているね。

ギデオンの時代、イスラエルは穏やかだったが、ギデオンが死ぬとすぐ、イスラエルは偶像崇拜をし、自分たちをミディヤンの圧迫から救い出した神様に心を留めなくなった。

問題が過ぎ去ると私たちの心は高ぶり、神様に頼ることをやめたり、神様を恐れることを忘れてしまうことがある。いつも神様と共にいることを願います！もっと神様の御心がわかるように助けてください！

2018/7/26(木)

士師記 9:1-21

エルバアル(ギデオン)の息子アビメレクは、他の70人の兄弟を皆殺しにして(ヨタムだけは難を逃れた)、自ら王位についた。最終的に、その統治は3年と続かなかった。簡単に言ってしまうと、ギデオンの死後生じた内輪もめと権力闘争である。そして最終的に、神は、一人の女の手によってアビメレクの悪に報いた。

神はこの歴史の中で悪に主権を持って裁きをなさる。ここに人間の理解力と制御の及ばない力が明らかにされている。イエス・キリストはまさに悪の世の主権者によって、十字架上で死なれた。しかし、悪の支配に委ねつつ、その上に主の主権があり、イエス様は勝利の復活をなされた。

あなたは神様の前にふさわしくないことをしていないだろうか？キリスト者としてふさわしく生きよう！！

2018/7/27(金)

士師記 9:22-40

アビメレクに戦いを挑んだガアルとシェケムが敗れた場面ですが、まず前提に、人がその能力で結果を良いものにした訳ではなくて、神様が全ての主権を握っていた事が分かります。(23v)

しかもそれは、神様がわざわざの霊を送った事から始まりました。神様は愛であり、また裁きを行う唯一の方です。その事を今一度自分の心にとめよう！許せない人はいないかな？また自分を許せないと思っていないかな？それに向き合う勇気がないと思うなら、それを神様に祈ろう！悔い改める時に神様が私たちに新しいプレゼントを与えて下さいます！その事によって平安を受け、愛を流せるようになります！

2018/7/28(土)

士師記 9:41-57

ガアルを倒したアビメレクは、シェケムに対して徹底的に報復をした。兵を待ちぶせさせたり、地下室を焼いたりして、多くの人を殺して行ったんだ。

でも、圧倒的な武力も、武器も持っていたアビメレクは、たった1人の女の人投げた一つの臼の石であっけなく致命傷を負ってしまった。彼はそんな死に方を嫌がり、道具持ちの若者に自分を殺させてしまったね。

人がする復讐、報復は、限界があるし、何より内側にある憎しみや怒りといった悪いものからくる。全てを知り、裁くべき時に裁く権威があるのは、人ではなく、神さまただ1人だね。主の正しいさばきを恐れつつ、信頼しよう。

今なにかをやり返したい、裁いているという1人がいるなら、それを神様に委ねよう！

2018/7/29(日)

士師記 10 章

イスラエルの民が神様の前に悪を行い、他の神々に偶像礼拝を行ったので、神様は怒ってイスラエルの民をペリシテ人とアモス人の手に渡しました。それはイスラエルが本当に神様に立ち返るためでした。イスラエルの民は神様に叫びましたが、神様は「私はこれ以上あなたがたを救わない」と語ります。しかし神様はイスラエルの民の悔い改める姿を見て、彼らの苦しみをみるに忍びなくなり、あわれみました。悔い改めても、また心変わりして神様を裏切るかもしれないイスラエルを、神様は見捨てず、愛することをやめない方です。この神様の愛によって私たちは愛されています。

もし神様に悔い改めることがあると思うなら、神様に正直になって悔い改めて祈り、行いを変えましょう！